

2023年2月8日

林 理恵 メディア総局長 2月定例記者会見 要旨

1. 2023年度改定方針（林メディア総局長）

私からは、2023年度の番組改定の方針についてご説明します。2023年度は、編成を大きく見直した22年度のさらなる定着、充実を図りながら、NHKだからこそ提供できる放送・サービスに力を注ぎます。私たちにとって、すべての放送とサービスの起点は視聴者のみなさまです。正確で安全・安心につながる情報と多彩で良質なコンテンツをお届けするとともに、持続可能な共生社会の実現に向けて公共的な役割をはたしていきます。さらに、メディア環境と視聴スタイルの変化をふまえ、放送・デジタル・イベント等が連動したコンテンツやサービスを創造していきます。

この方針のもと、来年度の編成では4つの重点事項を定めました。「デジタル時代に新たな公共性を確立」。「時代を超えるNHKならではのコンテンツを提供」。「地元密着と地域連携を強化」、そして「映像・音声資産の再構築と価値還元」です。この4つの柱にそって、具体的な強化ポイントを説明します。

まず、「デジタル時代に新たな公共性を確立」です。ウクライナ情勢に端を発するエネルギー危機や物価の高騰などを受けて、世界情勢に対する視聴者のみなさまの高まる関心に応えるため、信頼できる国際情報の発信を強化します。BS1で放送している「キャッチ！世界のトップニュース」を、去年3月から、総合テレビでも放送してきました。現役世代によく見られるなど、視聴が定着してきたため、総合テレビの定時番組として新設します。あらゆる世代の学びを支援するため、Eテレ午後10時から11時台の「大人の教養ゾーン」を強化します。水曜日の午後10時台に移設する「NHKアカデミア」は、誰もが憧れる各界のトップランナーが講師となり、インターネットでのオンライン講座と放送を組み合わせることができる、デジタル時代のコンテンツです。2023年度は本数を増やして放送します。このほかにも「名著などの文学にひたる月曜日」、「幅広い研究・学術の世界に出会う水曜日」、「食や古民家といった多様な暮らしに触れる木曜日」など、曜日ごとにテーマを定め、多様な興味に応える時間帯にしていきます。

重点事項の2つ目は、「時代を超えるNHKならではのコンテンツを提供」です。NHKの強みをいかした大型のシリーズを新たに立ち上げます。NHKスペシャルでは、2016年度に放送したシリーズ、「ディープオーシャン」の第2弾を予定しています。ダイオウイカを世界で初めて撮影したNHKの深海チームが、蓄積した撮影ノウハウをさらに発展させ取り組むプロジェクトです。放送と連動したリアルイベントにも引き続き力を入れることにしており、このシリーズは国立科学博物館の特別展も企画しています。

NHKの大事な役割であるユニバーサル放送も充実させます。来年度のEテレ午後8時台の「ハートネットTVゾーン」は曜日ごとにテーマを決めて内容を際立たせます。水曜日はテーマを手話にしぼって、耳が不自由な方に必要な情報をお届けする「ろうなん」をはじめ、「チョコちゃんに叱られる！」といった番組を手話でも楽しめるようにします。このほか、「NHKみんなの手話」のナビゲーターにSnow Manの佐久間大介さんをお迎えしたり、手話を使う家族の日常をユーモラスに伝えるアニメを放送したりするなど、手話を身近に感じ、楽しんでいただける番組を放送します。

ポイントの3つ目の「地元密着と地域連携を強化」です。日曜午後6時台には、芸能人

や著名人が自らのふるさとをツアー形式で紹介する新番組「サンドどっちマンツアーズ」がスタートします。地域のぬくもりや元気を全国に発信する番組です。このほか、平日午後と日曜日の午前に地域情報を全国に発信するゾーン新設します。平日午後には「列島ニュース」と「NHK地域局発」を隣接させて地域情報の発信強化をはかります。また、日曜朝は全国各地の放送局が取材した地域の自然や伝統、文化や人物など、日本の多様性を感じられるコンテンツを発信していきます。

最後は「映像・音声資産の再構築と価値還元」です。NHKがこれまで放送してきた膨大な映像、音声資産を、放送開始100年に向けて、視聴者のみなさまに還元していく取り組みの一環として番組を新設します。3か月スパンで多彩な番組をお届けしている総合テレビ午後11時台には、NHKのアーカイブスに保管されている映像から笑いあり、驚きありの映像を紹介する「天然素材NHK」を新たにスタートします。また、過去の名作を4K リマスター技術も活用して、新たな付加価値をつけてお届けしていきます。

以上、4つの重点事項に沿って、説明しました。視聴者のみなさまの期待や関心をデータの分析などによってしっかりと把握するとともに、ジャンル管理の強化、デジタルテクノロジーの活用などを通じて、放送とサービスの質を向上させ、NHKの公共的価値を実感していただけるよう力を尽くして参ります。

2. 衛星放送 再編を見据えた4月改定に（熊埜御堂メディア戦略本部長）

2023年12月、NHKの衛星放送は次のステージへと進み、「新 BS2K」(仮)と「新 BS4K」(仮)へと生まれ変わります。この大きな節目を見据えて、4月の改定を行います。今回の改定の大きな狙いは、視聴者のみなさまにできる限り円滑に再編を迎えていただき、より魅力的になったBSを楽しんでいただくことです。そのために、まず、衛星波全体を通じた番組の再配置を行いました。

BS1とBSプレミアムの番組の多くは、12月には新BS2Kに凝縮します。「再編で、これまで楽しみにしていた番組がなくなったり、時間が変わったりして見られなくなるのでは」というご心配があるかもしれませんが、視聴者のみなさまのご要望になるべく応えていきたいと考えています。例えば現在、BSプレミアムで放送している「大河ドラマ」や「連続テレビ小説」の先行放送などは、チャンネルは変わっても、同じ時間で編成したいと思っています。4月には、この方向性をふまえたうえで、BS1の編成枠の見直しを行っています。また、BS1の特徴である国際情報の発信強化には引き続き取り組みます。

BSプレミアムとBS4Kは、新BS4Kを先取りする編成となります。平日午後7時台以降の特集番組などをはじめ、あらかじめ12月の段階に近い形の番組編成を実施することで、12月以降に新BS4Kになっても大きく変えず、引き続きお楽しみいただけるようになっていきます。たとえば、平日午後7時半には、視聴者のみなさまからの支持の高い「世界ふれあい街歩き」などの番組を拡大して放送します。BS4Kではさらに、大型中継番組や名作ドラマのリマスター版など、4Kならではの臨場感を味わえる独自のコンテンツを強化していきます。

新しいチャンネルの名称は春頃、12月の再編時の編成は夏頃に発表できるよう、準備を進めて参ります。これからもNHKの衛星放送にご期待いただければと思います。

3. 2023年度 主な番組キャスター（山内メディア戦略副本部長）

2023年度の番組を担当するアナウンサーが決まりました。今年度の大きなポイントは、ニュース番組で、これまで以上に柔軟に対応できるチームを組んだことです。

たとえば正午のニュースでは、月曜から木曜の担当、金曜・土曜の担当、日曜・祝日の担当の、3人態勢でお届けします。多様なアナウンサーが持続可能なチームを組むことで、今の時代にあった放送を目指すのがねらいです。番組を担当しない日には、放送に向けた丁寧な準備を行ったり、現場に出て取材の幅を広げたりすることで、より深い情報をお届けできると考えました。

また、「NHKのど自慢」は、これまでは男性アナウンサー1人で司会をしてきましたが、男女2人のアナウンサーが交代で司会を担当する形にします。ここでもチームを組むことで、この長寿番組の新たな魅力を創り出していきたいと考えています。

もう一点は、キャスターを選定する際に、番組のコンセプトや演出意図をこれまで以上に定義し、それに相応しい個性や専門性を持つアナウンサーを起用するように努めました。いわゆる「ジョブディスクリプション」の考え方を採用することで、コンテンツの層の充実を図っていききたいと考えています。

（担当者）

まず、総合テレビです。「NHK ニュースおはよう日本」は、首藤奈知子、三條雅幸、伊藤海彦、副島萌生、4人のアナウンサーがキャスターを担当します。土曜日曜と祝日は、新たに寺門亜衣子アナウンサーが担当し、現在の井上二郎アナウンサーとともに進行します。

正午のニュースは、月曜から木曜を糸井羊司アナウンサーが、金曜と土曜を新たに池田伸子アナウンサーが、そして日曜と祝日を中山果奈アナウンサーが担当します。

「NHKニュース 7」は、和久田麻由子アナウンサーと瀧川剛史アナウンサーが、月曜から木曜のキャスターを担当します。今井翔馬アナウンサーと川崎理加アナウンサーは隔週で担当します。また金曜と土曜・日曜・祝日のキャスターは、高井正智アナウンサーと、現在「ニュースウオッチ 9」を担当する山内泉アナウンサー、そして森下絵理香アナウンサーが務めます。

「クローズアップ現代」は、引き続き桑子真帆アナウンサーが担当します。

次に「ニュースウオッチ9」です。青井実アナウンサー、田中正良キャスターに加えて、現在「ニュース7」を担当する林田理沙アナウンサーの3人でキャスターをつとめます。また、新たにスポーツコーナーの担当として吉岡真央アナウンサー、リポーターとして、現在大阪放送局所属の畠山衣美アナウンサーが加わります。

土曜夜の「サタデーウオッチ9」は、赤木野々花アナウンサー、ホルコム・ジャック和馬アナウンサーに加え、現在、長野放送局所属の川口由梨香アナウンサー、沖縄放送局所属の荒木さくらアナウンサーの2人がリポーターとして参加します。それぞれ地元のニュースや話題を自ら取材して伝えるなど、地域局で活躍した力が加わります。

「ニュース LIVE! ゆう5時」は、新たに小田切千アナウンサーと片山千恵子アナウンサーがキャスターを務めます。小田切アナウンサーは、「NHKのど自慢」での親しみあふれる司会経験をいかして、夕方のニュース情報番組のまとめ役を務めます。

金曜の夕方、大阪局から放送している「ニュースきん5時」は、高瀬耕造アナウンサーが新たに担当します。石橋亜紗アナウンサーとともに大阪から全国に向けて生放送でお伝えします。兵庫県出身の高瀬アナウンサーが、ゆかりある関西から多彩な情報をお伝えします。

また、大阪放送局は首都直下地震など大規模災害の際は、本部放送センターに代わって放送を担う機能を持つ重要拠点です。高瀬アナウンサーは“防災の顔”として、様々な番組や災害報道で豊富な経験をいかしてもらいます。

さらに、大阪放送局へは、現在「週刊まるわかりニュース」のキャスターを務める小山径アナウンサーも異動し、新たな地域の“顔”としてその魅力を発信します。こうしたキャスターの各地域への配置によって、来年度の編集方針の重点項目の一つである「地域連携の強化」をはかっています。

続いて、総合テレビから、新番組など、3つの番組をご紹介します。
「NHKのど自慢」は、小田切千アナウンサーに代わり、廣瀬智美アナウンサーと、現在大阪放送局に所属する二宮直輝アナウンサーが交代で司会を務めます。2人ともエンターテインメント番組の経験が豊富で、出場者の皆さんの多彩な個性をしっかりとお伝えしていきます。

日曜夕方の新番組「サンドどっちマンツアーズ」は、杉浦友紀アナウンサーが担当します。サンドウィッチマンのお二人と、ローカルならではの話題、ふるさとの温もりをお届けします。

月曜放送の「映像の世紀 バタフライエフェクト」は、ナレーションが代わり、糸井羊司アナウンサーと伊東敏恵アナウンサーが担当します。ベテランのふたりが、歴史に秘められた意外なドラマを紡ぎ出していきます。

続いて、Eテレの番組です。月曜から水曜放送の「ハートネットTV」の司会は、新たに現在札幌放送局の瀬田宙大アナウンサーが務めます。引き続き担当の中山果奈アナウンサーと、新しくリポーターとして加わる現在沖縄放送局の池間昌人アナウンサーとともに、多様性や共生社会について、視聴者の皆さんと一緒に考えていきます。

続いて、ラジオ第1の番組です。午前 8 時から昼前まで放送する新番組「ふんわり」は、現在大津放送局の稲垣秀人アナウンサーと、澤田彩香アナウンサーが日替わりで担当します。伍代夏子さん、六角精児さんら、5人の個性派パーソナリティーとのトーク、そして癒しの音楽で、ふんわりとした時間をお楽しみください。

FM です。日曜の新番組「伊集院光の百年ラヂオ」は、NHK アーカイブスに保管されている番組の中から選りすぐりの音源を、伊集院光さんと、磯野佑子アナウンサーの進行で、お楽しみいただきます。以上が、2023 年度の主な番組のキャスターです。

「ニュース7」を新しく担当する和久田麻由子アナウンサーからのコメントが届いています。

『365日。いつでも変わらず、みなさんのもとに最新のニュースをお届けしてきた「NHKニュース7」。私自身にとっては1年ぶりに報道番組を担当することになり、身の引き締まる思いです。

一方で、わたしたちの足もとのくらしや働き方から国際情勢まで、あらゆる“変化”を実感する時代でもあります。きょうを知り、あすに備えるための材料となる確かなニュースを、新しい「NHK ニュース7」から誠心誠意お伝えしていきます。』

(以上)